たおやか瓦版

平安時代から愛される嵐山

桂川に水力発電所!?

嵐山の大堰川に架かる橋は嵐橋とも呼ばれ、古くは平安時代の始めの承和3年（836年）に空海の弟子　道昌が大堰川を改修したおりに架橋したものといわれています。渡月橋の呼称は、亀山上皇が曇りのない夜空に月がさながら橋を渡るようなさまをみて「くまなき月の渡るに似る」と感想を洩らされたことから「渡月橋」と呼ばれるようになったといわれています。

現在の橋は、照明設備を義務づける法令施行前の1934年に架設され、1994~2000年の改修時も景観の重視により、照明の設置が見送られました。

現在の形に整備された時に、景観上の問題から、橋の上にニョキニョキと生えた外灯は却下されてしまいました。渡月橋の写真がなぜきれいなのかというと、やはり昔の渡月橋の形をうまく残しているからなんですよね。

嵐山保勝会水力発電所と渡月橋）

夜の渡月橋の照明）

抱えていた課題

その橋の上に、現代的な街路灯なんかもってのほか、と考えられたようです。

結果、夜だからと言って車が通らないわけではないし、バスだって通ります。歩行者も橋上で道を横断することもあります。

それと長い橋なのに真っ暗というのは、心理的にも良くないですよね。犯罪の温床にもなるし、まして有名な自殺場所とでもなれば、観光に対するダメージは計り知れないものがあります。

地元では、なんとか灯りを点けようということになったのですが、なかなか申請が通るわけでもありません。そんな中で、「嵐山保勝会」が目の前の大堰川の水を使った水力発電によって電力を賄うということで、許可が下りました。水力発電は地球温暖化防止にかなってますね。

桂川（一級河川）の流れを利用した小水力発電による自然のエネルギーを利用するということで設置の許可が下り、実現しました。この灯りは、橋を渡る人々の足元を照らすだけでなく、地球温暖化防止の道しるべとして明るい光を灯し続けるでしょう。

（たおやか瓦版）

編集
発行所
たおやかインターネット放送

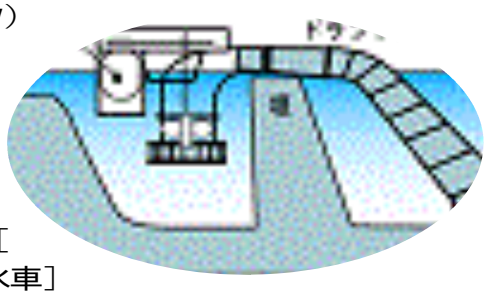
渡月橋に発電所

スペック

○落　差　　1.74・（平常1.34・程度）

○最大使用水量　0.55・/s

○最大出力　　5.5kw（平常4.3kw）



［水車］

○サイフォン式プロペラ水車

［発電機］

○三相誘導発電機　200v　60Hz

［運用形態］

○低圧系統連係

○逆潮流あり（余剰電力の売電）

［照明設備］

LED照明器具 / 単相 100V / 容量 1 kw / 光演出機能

自然石使用 / 計６０基

編集後記

小水力発電は、太陽光発電の方が建設コストや維持コストは安いのですが、天候に左右されると照明としての機能が果たせませんね。

それと目の前には豊富な水量の大堰川があるので、それを使わない手はありません。

環境にも景観にも配慮した現代的な照明設備が整っています。夜に渡月橋を歩くことがあったら、周りの夜景ばかりではなく、足元の小さな外灯にも目をやってください。